

開発途上国の課題解決で ビジネスチャンスをつかむ



三重県



モザンビーク

モザンビークでティラピアの養殖事業を軌道に



植物由来の飼料も開発 事業も黒字化に

養殖するのは現地に生息し、通年養殖が可能なティラピアという魚です。三重大学の協力を得て、養殖施設や植物由来の安全な低コスト飼料の開発にも成功し、当社のティラピアが庶民の間に流通しました。新鮮で市価の2割程度安く好評です。JICA事業完了後も試行錯誤を続け、現在では養殖事業単独での黒字化も実現しています。また、独自の資源調査で良質なタコの漁場も開拓でき、第2工場の稼働も始めています。

養殖した魚が盗難に遭うなど、事業化への道のりには幾多のハードルがありました。現在、JICAの長期研修制度を使って三重大学に留学したモザンビーク人社員たちが、衛生や耐病性に優れた陸上養殖に挑んでいます。工場では社員に食事を提供し、教育にも力を入れ信頼関係を築いてきました。有望な幹部候補も育ており将来、現地に経営を任せることが出来るよう事業を進めています。



最貧国のひとつ 国民の半数が栄養失調

当社は水産物の専門商社です。私は海外事業を担当し、世界の産地を開拓しています。モザンビーク進出のきっかけは2013年、良質なハマグリが獲れることから調達・加工拠点の現地法人を設立したことです。

世界最貧国に数えられるモザンビークは、国民の半数が栄養失調の状態にあります。衛生環境も悪く、現地の大量魚である輸入アジは日本では食用に値しないほどの品質です。失業率も高く、国民の多くが劣悪な労働環境で生計をたてている不安定な社会状況に加えて、食糧価格は高騰していました。

当社の流通・加工のノウハウを生かし、ハマグリ漁と並行して安価で衛生的な魚を養殖し販売できないかと考えましたが、現地に設備や機材はまったくありませんでした。また、養殖の専門的な技術も必要でした。公的な支援を受けようとJICAの事業に応募し、モザンビークの低所得層の栄養改善と雇用機会の提供を目指すプロジェクトを進めました。


JICA事業で目指す
SDGs GOALS


A-ONE CO., LTD.

株式会社A-ONE

三重県伊勢市小木町61

取締役専務 海外事業部長 飯田 哲也さん

お問い合わせ先

JICA(ジャイカ)中部
企業連携課

☎052-533-1387 (直通)

✉cbictps@jica.go.jp